

消化器肝臓内科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、診療後の残余検体と診療情報等を使って行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。なお、この臨床研究は倫理審査委員会の審査を受け、研究方法の科学性、倫理性や患者さんの人権が守られていることが確認され、病院長の許可を受けています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

《研究課題名》術後再建腸管を有する患者を対象としたショートタイプダブルバルーン内視鏡 EI-530B と EI-580BT を用いた ERCP 関連手技の有用性に関する比較評価

《研究機関名・研究責任者》 関西医科大学附属病院・消化器肝臓内科・准教授 島谷昌明

《研究の目的》術後再建腸管を有する胆道疾患の患者様に対するダブルバルーン内視鏡を用いた治療（検査）の有用性を検討するため。

《研究期間》研究許可日～2021年3月31日

《研究の方法》

●対象となる患者さん

術後再建腸管を有する胆道疾患の患者さんで、2006年2月1日から2019年3月31日の間にダブルバルーン内視鏡を用いた治療（検査）を受けた方

●研究に用いる試料・情報の種類

情報：再建術式、年齢、性別、目的部位到達時間、乳頭あり症例のカニューレーション時間

《この研究に関する情報の提供について》

この研究に関して、研究計画書や研究に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

《この研究での検体・診療情報等の取扱い》

お預かりした診療情報等には匿名化処理を行い、患者さんの氏名や住所などが特定できないように安全管理措置を講じたうえで取扱っています。

《本研究の資金源・利益相反について》

この研究は、富士フイルム株式会社から資金提供を受けて実施しているものです。この研究は研究者が独立して計画し実施するものであり、当該企業が研究の実施、解析、報告に係わることはありません。また、この研究の研究責任者および研究分担者は、「学校法人関西医科大学利益相反マネジメントに関する規程」に従い、利益相反マネジメント委員会に必要事項を申告し、その審査と承認を得ています。

*上記の研究に利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

《問い合わせ先》

関西医科大学附属病院 消化器肝臓内科 担当医師 准教授・島谷昌明

〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目3番1号

TEL：072-804-0101（代表） FAX：072-804-0131